

令和4年第3回北杜市八ヶ岳スケートセンター管理運営委員会 議事録

日時：令和5年2月22日（水）16時～

場所：北杜市役所西館2階

出席者：管理運営委員会委員11名

欠席者：3名

事務局：加藤教育部長、渡辺生涯学習課長、社会体育担当利根川、相良
傍聴人2名

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 協議事項

（1）令和4年度実績報告

～令和4年度実績報告について事務局より説明～

（議長）利用者の中でこういった事業が利用者数を押し上げているのか。

（事務局）親子スケート教室が好評だった。一回当たり100人近くが参加した。今シーズンについては市内すべての小学校がスケート教室を八ヶ岳で開催した。県スケート連盟の開催する大会が子どもだけでなく、保護者も来場したため非常に大きいウエイトを占めている。

（委員）機械を整備したということで、これまでよりも製氷技術が上がったということか。

（議長）県が引渡し前に冷凍設備をオーバーホール等を行ったことや今シーズン天候にも恵まれたことが良かった。

(事務局) 県において修繕を行っていただき、近年よりも氷の質が良く、来場者に好評だった。燃料費の消費についても、オーバーホール等を行ったことで、冷凍設備の性能が上がったため、予想していた燃料使用量より少なく、燃料費が高騰している中で当初見込んだ予算より削減できた。

県より運営費の補助をしていただいております。感謝している。

(委員) 軽油を重油に変更したとのことだが、機械が対応できるのか。

(事務局) 県の運営時は発電機の燃料は主に軽油を使用していたが、燃料費が高騰しているため、重油を使用した発電機にした。

(委員) A 重油と軽油はいくら違うのか。

(事務局) 1ℓあたり 30~40 円違う。

(委員) 目標値から 6000 人の減となっているが、目標設定の際にどの部分を見込んでいたのか。ターゲットをどこに置いていたのか。今後はその部分に手を打たなくてはならない。

(事務局) 過去、県営の時の最大値を目標とした。要因等を考えると観光施設との連携が不足していた。スケート人口も減少していることも考えられるが、スケートをする方の拾い出しもうまくいかなかった。市においても SNS でリンク状況・営業状況を周知していたが来てもらえる、インパクトのある発信などアピールが足りなかった。次年度以降についても観光施設との連携、利用していただけるようなイベント教室の開催の工夫を行い、底辺の拡大をしていきたい。

(委員) 利用者数の多い 28 年度、29 年度と比較できているのか。利用層の違い

などはあるのか。

(事務局) 県営で指定管理者が運営してた時は平日の初心者向けの教室が開催されていた。初心者でも気軽にスケートができる状況だったのが増加する要因だったと考える。年齢層、観光なのか地元なのかが把握できていないが、市として初心者向けの教室ができていない。

(議長) 少子化ということもあるが、大会実施ができなかったことや教室を行っていなかったことなど様々な要因を含めて次年度は取り組んでもらいたい。

(委員) SNS に同じような景色ばかり。スケートを今から始めたい子たちへのアピールが少なかった。アンケートで風景が良かったという意見もあるため、景色の写真を載せるといい。もう一度利用したい方が多い。大会誘致が必要になるが、大会を打つには不便なことがある。休憩室や地下通路、ポイント打ち等を含めて大会実施に適したリンクコンディションも必要。

(委員) スケートセンターがどのように変わったのかわからないという意見があった。過去できていなかったが、今シーズンは初日からしっかり氷ができていたことが良かった。SNS を活用するなど努力していてよかった。利用者数が少なかった要因として、飲食コーナーが充実していなかったことや保育園児が遊べる遊具がなかったことがある。これまで行っていた、無料滑走日がなかった。

(議長) 県から市に譲渡され、手探りのなかだったが、今後も頑張っていたきたい。

(2) 令和5年度工事計画について

～令和5年度工事計画について事務局より説明～

(議長) インラインスケートはきめ細かい舗装なのか。スケートボードの場所はどこを計画しているのか。

(事務局) 粒経細かい舗装をする。流量調整池を令和5年度以降にスケボーのセクションの整備を計画している。

(議長) インラインスケートはどういった形で使うのか。

(事務局) 冬場に向けてのスケート練習をしてもらいたい。1周150mになる。

(議長) 来年度から使用できるのか。

スケートボードは東側だけになるのか。

(事務局) リンク内側の工事を行っているため、来年度夏についても使用ができない。

インラインスケート内側については、移動式のスケートボードセクションを置けるような状況であれば、支障のない範囲で小型のものを検討している。調整池を有効活用してポールセクションを検討している。

(委員) フィギュアエリアはフィギュアのみか。

(事務局) 限定はしていない。初心者が手すりのある中で滑れるところを考えている。インラインスケートのエリアを冬季に子どもたちが遊べるようなエリアにしたら楽しんでもらえるのではないかと考えている。

(委員) フィギュアリンクは指導者の立場からしてありがたい。初心者、中級者、上級者の接触を避けることができる。保護者も中に入ることができる。選手目線で考えるとコーナー技術の向上を図ることができる。県内でインラインスケート施設がないので、整備していただくことに効果はある。長野県からも集客が見込めるのではないか。完成次第 PR が必要

(委員) 400m リンクではローラーはできないのか。コーナーのアールがきつくなり転倒が予想されるが、クッション等の設置は考えているのか。

(事務局) 今後、フェンスの設置やスケートボードセクションを考えているためお互い危なくないように設置を検討していく。

(3) その他

(事務局) 11 月 21 日から今月 20 日までクラウドファンディングを実施し、12,621,500 円の寄付が集まり、今後のスケート文化の振興及び施設運営に利用していく。今年度、来場者アンケートを実施し、継続希望や景色などの意見のほか、リンクコンディション改善希望や食事ができる環境などの要望があった。来年度以降の課題となるため、改善を検討していきたい。

(委員) 保護者からクラウドファンディングの使い道について、選手にどのような形で提供されるのか、トレーニング設備が拡充されるのか、ベンチが新しくなるのか、見てわかるものがある。滑走レーンの分別化を気にしている。スタッフの対応が厳しい。指導者としてはお勧めしないが昨年茅野にて夜間練習していたため、保護者から小学生高学年の夜間練習の希望がある。中学校に入ってからスケートを続ける方が少ないため、選手がいなくなってしまうことが課題。ス

ケートセンターが継続しているので、健康増進だけでなく、スケート選手の育成も課題となる。

(議長) クラウドファンディングの使途についても検討していただきたい。

4. 閉会